

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2549 号

Risk factors for progressing to severe COVID-19 among people living with HIV in Japan:  
A hospital claims database study

日本における HIV 感染者の COVID-19 重症化リスク因子：レセプトデータベースの解析

金澤 晶雄 (かなざわ あきお)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

日本国内では HIV 感染者における COVID-19 の重症化リスクの検討は十分に実施されていない。本研究は、日本における HIV 感染者の COVID-19 重症化に関連するリスク因子をレセプトデータベースを用いて解析した後方視的研究である。患者データは 460 の急性期病院 (DPC 病院全体の 26%) を含む Medical Data Vision 株式会社 (MDV) のデータベースより抽出した。2020 年 1 月から 2021 年 12 月に COVID-19 で入院した HIV 感染者について DPC データの病名と治療コードを用いて、COVID-19 の重症度を解析した。重症度は酸素吸入がある患者を中等症 II とし、気管挿管、ハイフローセラピー、ECMO のコードがある患者を重症、それ以外を軽症/中等症 I と分類した。また年齢、喫煙歴、妊娠歴、合併症、AIDS と AIDS 指標疾患、入院日数、退院の転帰、入院中に投与された治療薬及び実施された処置についてデータを収集し、COVID-19 の重症度の関連について分析した。連続変数は t 検定、カテゴリ変数はフィッシャーの正確確率検定を用いて統計解析し、有意差を  $p < 0.05$  と設定した。HIV 感染者 4672 人のうち、94 人が COVID-19 の診断に至り、85 人が COVID-19 で入院した。78 人が男性 (91.8%) で、平均年齢は 48 歳 (標準偏差 14.4) であった。軽症/中等症が 75 名、重症例が 9 名であり、死亡例は 1 名であった。年齢の平均値は軽症/中等症群が 46 才、重症/死亡例が 65 才と有意差 ( $p = 0.002$ ) があつた。また高血圧症は軽症/中等症群で 13 名、重症死亡群で 5 名と有意に重症/死亡例高い割合 ( $p = 0.032$ ) を占めた。一方で、梅毒は軽症/中等症群で 34 名、重症/死亡群で 0 名と有意に軽症/中等症群で高い割合 ( $p = 0.005$ ) となった。AIDS や AIDS 指標疾患は統計学的に有意なリスク因子とは認められなかった。本研究は日本の COVID-19 入院患者の中で高齢または高血圧を持つ HIV 感染者は、COVID-19 の重症化に至るリスクが高いことを示しており、これらの患者群には臨床経過をより注意深く監視する必要性が示唆された。